

うめきた2期地区開発事業者が決定 ～関西でのイノベーション創出をめざして～

大阪の都心に残された最後の一等地といわれる「うめきた」では、先行開発地域としてグランフロント大阪等がまちびらきしてから約5年半が経過した。そして、今年7月には2期地区の開発事業者が決定し、2024年夏のまちびらきに向けた開発が始動した。今号では、開発事業者の事業企画提案の概要とともに、官民連携によるイノベーション創出拠点の形成に向けた取り組みを中心に紹介する。

開発事業者決定までの経緯

昨年12月、都市再生機構は、うめきた2期地区の開発事業者募集を実施した。募集に際して都市再生機構は、2015年3月に決定された「うめきた2期区域まちづくりの方針」に基づき、敷地内におおむね8haの「みどり」を確保することや、イノベーション創出に向けて、総合コーディネート機関や国などのイノベーション支援機関等が入居するプラットフォーム施設を1万㎡程度確保することなどを求めた。

募集には2者が応募し、事業企画提案審査等を経て、三菱地所を代表企業とするグループが開発事業者に選定された。

開発事業者の事業企画提案の概要

開発事業者は、「希望の杜—Osaka “MIDORI” LIFE 2070 の創造—」をコンセプトに掲げ、うめきた2期を「みどり」と融合した生命力と活力あふれる都市空間とすることをめざすとしている。中心に配される4.5haの広大な都市公園を挟んで、北街区は新産業創出の拠点、南街区は国際交流の拠点となるよう、バランスよく都市機能が配置される。北街区には、産学官民の交流を促すためのプラットフォーム施設やイノベーション施設、南街区には、ホテルや商業施設、都市型スパ、MICE施設などの整備が計画されている。

また、1万人規模のイベントを開催できる広場や、都心で自然を感じられるような憩いの場となる都市公園などとともに、民間宅地にも「みどり」を整備し、敷地内一体にみどりの空間があふれるよう工夫されている。パークマネジメントとタウンマネジメントを一体的に実施する組織(MMO*)が設置され、都市公園と民間宅地の「みどり」を一体的に管理運営していく。

この提案を実現するべく、開発事業者は20年10月以降順次工事に着手し、24年夏ごろのまちびらきをめざす。

*MMO：MIDORI Management Organization

うめきた2期地区土地利用計画図



提供：開発事業者

うめきた2期地区全景(上図を左側から鳥瞰)



提供：開発事業者

イノベーション創出をめざして

うめきた2期は、世界をリードするイノベーション創出拠点としての役割を求められている。その実現に向けて、開発事業者は、「共に考え、一緒に創る“with”イノベーション」等を中核機能のコンセプトに掲げ、7つの施策により「うめきた共創エコシステム」を構築し、次世代ヘルスケア、人とロボット共生など12分野について新産業創出の加速をめざすとしている。

具体的には、グランフロント大阪内の「ナレッジキャピタル(知的創造拠点)」の機能を2期においても拡充していく。交流機能の強化に向けては、1期に集うイノベティブな人材と市民やグローバルな人材との交流が行われるよう、ネットワークづくりを行う。さらに、来訪者等のヒューマンデータなどを活用する基盤の整備や、産学官の連携等により、ビジネス創出機能を充実する。また、1期のナレッジキャピタルと2期中核機能施設をデッキにより接続することで、一体的なイノベーション創出を展開する(左図)。

運営については、プラットフォーム施設運営組織(総合コーディネート機関)および開発事業者によるイノベーション施設運営組織(CCG*)を設置する。

*CCG: Co-Creation Generator

推進協議会での取り組み

昨年6月には、中核機能の運営を行う総合コーディネート機関設置などを目的に、関経連の関総一郎専務理事を代表とする「うめきた2期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会(以下、推進協議会)」が発足している。

推進協議会では、①まちびらきに向けてイノベーション創出活動を推進していくための先行的取り組み(イベント・実証研究等)、②まちびらき以降のイノベーションプラットフォームの中心的役割を担う「総合コーディネート機関」設置に向けた取り組み

を展開している。①については、昨年度に続き、今年度も以下のイベントを実施する予定である。

「イノベーションストリームKANSAI」(18年12月)

超スマート社会が到来するなか、将来のうめきたの姿を考えるシンポジウムと、関西一円の大学・研究機関等で生み出された新技術等に来場者が実際に触れ、体験することのできる展示会を開催。

②については、10月以降、開発事業者とも連携して議論を具体的に進めていく。

関経連の取り組み

関経連では、関西でイノベーションを創出すべく、エコシステム形成＝「イノベティブな人材を引きつける魅力の構築」に向けて主に2つの取り組みを進めていく。

1つ目は、ベンチャー支援拠点間の連携に向けた取り組みである。関西には、すでにさまざまなベンチャー支援組織が存在するが、個々に活動しているため関西全体としての一体感がなく、情報発信力、ブランディング、魅力を高める機能としては不十分である。そのため、うめきたが関西のイノベーションのハブ拠点となるべく、ベンチャー支援拠点間の連携の実現について調査・検討を進めていく。

2つ目は、ベンチャー企業と大企業との連携を促す取り組みである。ベンチャー企業の大企業に対する期待は非常に大きく、一方、大企業もオープンイノベーションを推進していくためには、ベンチャー企業は重要なパートナーのひとつと認識している。それぞれの立場から連携への課題を克服し、期待を具現化するための仕組みや仕掛けが創出できるよう取り組んでいく。

当会では、イノベーションによって解決が期待される関西の社会課題等も整理した上で、関西でのイノベーションの創出に向けて関係機関とも連携し、取り組みを進めていく。

(産業部 石原徳也)

着々と進むJR東海道線支線地下化および新駅設置工事

うめきた2期では、開発事業者による工事に先立ち、大阪市と西日本旅客鉄道が貨物列車のほか特急はるか・くろしお等が走行するJR東海道線支線の地下化工事および新駅設置工事を進めている。

23年春にうめきた2期の地下に設置される新駅が開業すると、新駅が結節点となり、京都と新大阪、そして関西国際空港が結ばれ、関西国際空港のアクセスがさらに向上し、関西全体の国際競争力の強化につながると期待されている。



地下に建設中のトンネル